

# Economic Indicators

発表日: 2021年1月12日(火)

## 国際収支(2020年11月)

～貿易収支の黒字幅拡大などにより経常収支の黒字は拡大。先行きは下振れリスクも～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

エコノミスト 奥脇 健史 (TEL: 03-5221-4524)

		原数値 経常収支 (億円)	季調値 経常収支 (億円)	貿易・サービス収支			第一次所得収支
					貿易・サービス収支		
					貿易収支	サービス収支	
2019	11月	14,563	18,072	1,750	842	907	17,933
	12月	5,449	18,839	3,306	1,805	1,501	16,654
2020	1月	6,617	16,721	▲ 1,208	▲ 615	▲ 593	19,318
	2月	31,804	23,622	4,822	8,184	▲ 3,362	20,234
	3月	19,595	9,218	▲ 4,691	▲ 1,407	▲ 3,284	14,955
	4月	2,033	2,413	▲ 13,678	▲ 9,861	▲ 3,816	17,364
	5月	10,796	7,229	▲ 8,692	▲ 4,921	▲ 3,771	17,925
	6月	1,333	10,078	▲ 4,438	▲ 1,671	▲ 2,768	16,262
	7月	15,415	10,426	▲ 1,882	666	▲ 2,548	13,441
	8月	20,998	16,414	1,391	5,292	▲ 3,901	17,153
	9月	16,498	13,360	4,130	7,584	▲ 3,454	16,063
	10月	21,447	19,833	5,380	7,538	▲ 2,159	16,849
	11月	18,784	23,393	7,207	9,974	▲ 2,766	18,988

(出所)財務省「国際収支統計」

### ○貿易収支、第一次所得収支の黒字拡大により、20年11月の経常収支は黒字幅がさら拡大

20年11月の経常収支(原数値)は18,784億円の黒字(コンセンサス:15,495億円の黒字、レンジ:14,500億円の黒字~17,064億円の黒字)とコンセンサスを上回る結果となった。また、季節調整値では23,393億円の黒字(前月比+18.0%)となった。前月から貿易収支と第一次所得収支の黒字幅がさらに拡大したことにより、経常収支は季節調整値で20年2月以来の2兆円を超える高水準となった。

経常収支(季節調整値)を項目別にみると、貿易収支の黒字幅拡大により貿易・サービス収支は7,207億円の黒字(10月:5,380億円の黒字)と4か月連続で黒字幅が拡大した。輸出が前月比+4.3%と高い伸びをみせた一方、輸入が同+0.3%と小幅な増加にとどまったことで、貿易収支は9,974億円の黒字(10月:7,538億円の黒字)と大幅な黒字となった。一方、サービス収支は▲2,766億円の赤字(10月:▲2,159億円の赤字)となった。その他サービス収支の赤字幅が拡大したことにより前月から赤字幅が拡大している。なお、旅行収支については訪日外客数の急減に伴って低迷が続いている(10月:223億円の黒字→11月:302億円の黒字)。

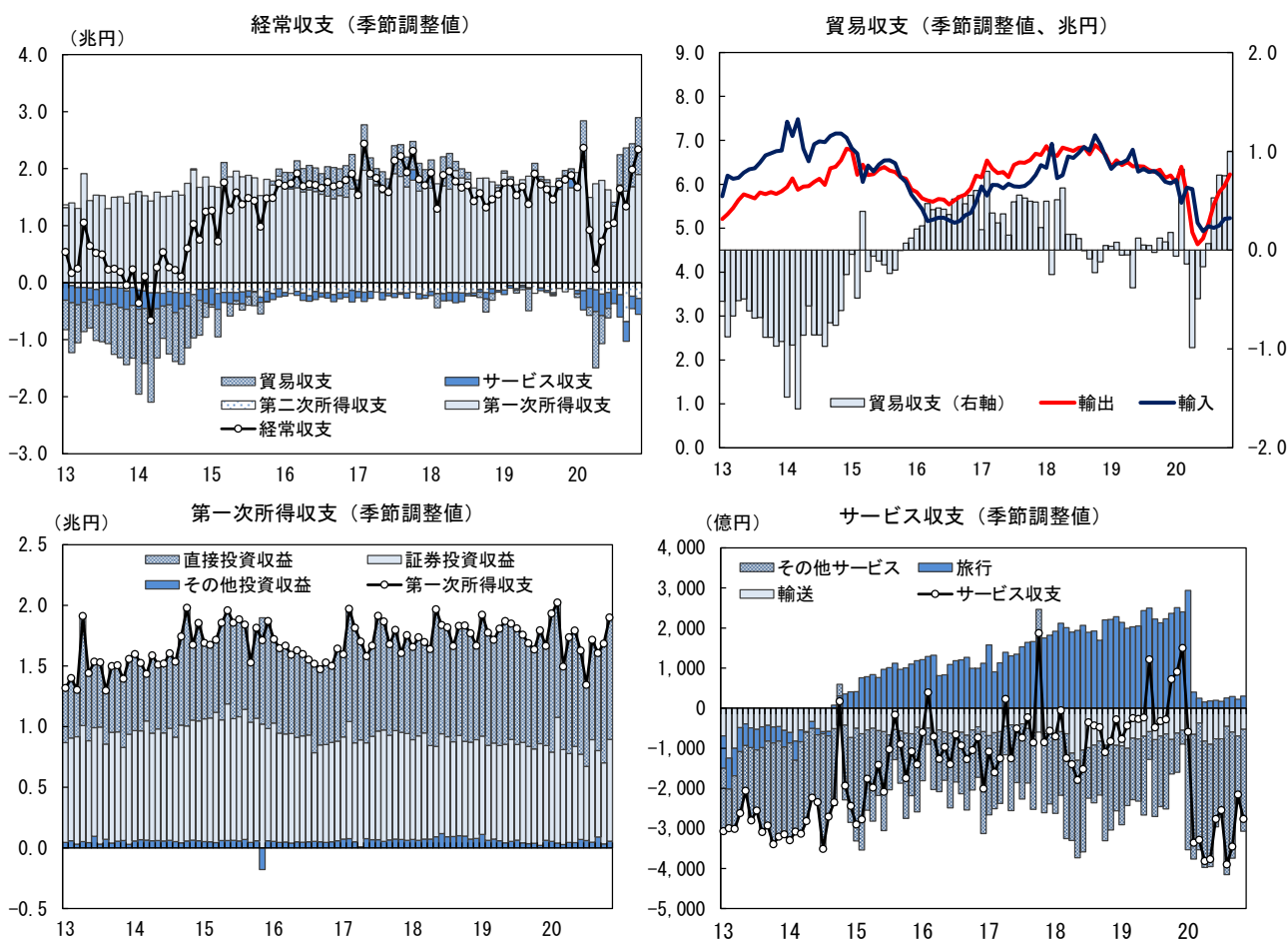
第一次所得収支は18,988億円の黒字(10月:16,849億円の黒字)となった。直接投資収益の支払が減少したことで、第一次所得収支の黒字幅が拡大した。第一次所得収支は引き続き高い水準を維持しており、経常収支の黒字を下支えする構図が続いている。

## ○20年10-12月期の経常収支は前期比で増加する公算大も、先行きは下振れのリスク

以上の通り、20年11月の経常収支は貿易収支、第一次所得収支の黒字幅拡大により20年10月から黒字幅が拡大した。20年12月も貿易収支は黒字となる可能性は高く、20年10-12月期の経常収支は前期比で増加となる公算が大きい。

20年12月の貿易統計上中旬によると、輸出が前年比+2.6%、輸入が同▲18.4%となった。これをもとに試算をすると、20年12月の貿易収支は引き続き黒字となる可能性が高い。低迷が続く旅行収支については、新型コロナウイルスの感染収束まで時間がかかる中、新型コロナウイルス変異種確認に伴い入国制限の強化が行われるなど、回復にはまだほど遠い状況だ。第一次所得収支については、今後も高水準で推移し、経常収支の黒字を下支えする構図が続くとみられる。もっとも、新型コロナウイルスの感染状況悪化に伴い世界経済に下押し圧力がかかるなど、今後も下振れのリスクは残る。

先行きについては、経常収支の黒字は水準を切り下げるとみている。日本では1都3県に対する緊急事態宣言が発出され、各国で感染拡大防止のための経済活動制限措置がとられるなど、世界経済に下押し圧力がかかっている。それに伴い輸出の回復ペースの鈍化が見込まれるなど、経常収支は下振れる可能性があるだろう。貿易収支や第一次所得収支の黒字が経常黒字を支える構図は続くと思われるが、今後も不透明感が強い状況は続く見通しだ。



(出所) 財務省「国際収支統計」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。